

# 監修の序

中心静脈穿刺による重篤な合併症の事例報告より、中心静脈穿刺に関する安全管理の重要性がクローズアップされています。重篤な合併症の再発を防ぐために日本医療安全調査機構によりいくつかの提言がまとめられました。超音波診断装置による標的血管の確認や超音波ガイド下穿刺が必須となり、実践の前にはトレーニングをすることの必要性が強調されています。中心静脈カテーテル留置の適応に関しても慎重に決定することが求められ、「重症患者管理にはとりあえず中心静脈穿刺」という考え方は見直されつつあります。安全管理に向けた改革がいよいよはじまりました。

中心静脈穿刺は穿刺する部位により血管の走行や特徴が異なり、穿刺の方法や注意点も異なります。穿刺には3次元構造の理解が必須で、そのためには正しい超音波診断装置の操作が求められます。穿刺針の扱いに関しても注意が必要で、プローブとの連動が保たれなければ穿刺は成功しません。しかしながら、超音波ガイド下中心静脈穿刺に焦点を絞ったテキストはなく、安全管理を実践するための情報も十分とは言えません。安全管理に向けた改革に対応すべく、今回、本書を監修しました。超音波ガイド下穿刺の部位ごとの特徴についてまとめ、穿刺部位の3D画像もふんだんに盛り込んでいます。さらに注意すべき合併症や教育体制についてもまとめています。本書が超音波ガイド下中心静脈穿刺のバイブルとなり、安全な手技がもっともっと普及するきっかけになることを期待しています。

2021年2月

獨協医科大学埼玉医療センター 救命救急センター  
松島久雄